北海道島松地区におけるツツガムシの年間消長について: 長谷川恩・大野善右衛門・服部蛙作・吉田喬 Hasegawa, M., Ono, Z., Hattori, K. & Yoshida, T.: Seasonal prevalence of trombiculid mites in Shimamatsu District, Hokkaido

1955年11月より1956年毎月1回スナップトラップを用い、北海道島松地区において、ツツガムシの年間消長を調査した。此の期間に採集せられた宿主は総計489個体でその内訳はドブネズミ4, エゾヤチネズミ226, エゾアカネズミ153, ヒメネズミ64, ハツカネズミ8, トガリネズミ34である。これらにより得られたツツガムシは2属3亜属にわたる6種でこの内容は *T. (L.) intermedia* 20678, *T. (L.) palpalis* 17471, *T. (L.) pallida* 2237, *T. (N.) japonica* 1982, *T. (N.) pomoranzevi* 289, *G. (G.) saduski* 1303, 総計43958 疋であつた。この6種中 *T. (L.) intermedia* は4月5日と9月10日に最高峯を政つ二峯性の消長曲線を描く, *T. (L.) palpalis* は11月以後3月に到る冬期間に山を持つに対し *T. (L.) pallida* は10月に最高の山を持つ夫々一峯性の消長を示す。同じ *Neotrombicula* 亜属に属する *T. (N.) japonica* と *T. (N.) pomoranzevi* は極めて特色ある対照を示し, 前者は秋期に, 後者は春期に夫々山を持つ一峯性の消長曲線を示した。第6種, *G. (G.) saduski* は7月(此の時期はツツガムシを採集し得なかつた)を除き, 全期間に少数づつ認められた。尚 *T. (L.) pallida* は北海道において得られた第12種目のツツガムシである。(北海道衛研, 陸自衛隊・札幌病院)

三浦三崎における恙虫の季節的消長: 加納六郎・久郷準 Kano, R. & Kugoh, T.: Notes on the seasonal occurrence of larval trombiculid mites in Miura Peninsula, Kanagawa

神奈川県三浦半島に不明発疹性熱性疾患があり, 患者が野比附近から発生し野比熱或は二十日熱と称されている。又1952年1月三浦市南下浦町松輪に発疹性熱性患者が発生し, 右頬に刺口が見出され, リケッチア症の疑いがありその後同年10月同附近の畑で捕えられたアカネズミから北研・予研においてリケッチアが分離された報告がある。地方性リケッチア症研究班(班長田宮猛雄)によつて1955年11月より1956年11月にわたつて三浦半島南端, 三浦市南下浦松輪において年間の恙虫の発生及び野鼠のリケッチア保有状況を調査したのでその結果を報告する。ホンドアカネズミ104, ニッポンドブネズミ4,

ホンシユウヒミズ11 計119 頭を捕獲しそれに寄生せる恙虫2属7種を採集した。即ち *T. pallida*, *T. fuji*, *T. kitasatoi*, *G. saduski*, *T. japonica*, *T. miyajimai* 及び *T. intermedia* の順に多く総数12,417 疋を得た。これらの中リケッチア性疾患のこの地での媒介者と目されている *T. pallida* は9月に発生し始め, 11月に急激に増加し1月にはその1/5以下に減少し5月まで僅かではあるが採集することが出来た。*T. fuji* の出現時期及び期間も *T. pallida* に甚だ類似しているが, 11月にその頂点に達し漸次減少して5月には認められなかつた。*T. kitasatoi* は夏期には僅少であるが一年間を通じて採集することが出来た。*G. saduski* は10月から6月の間に採集され, *T. japonica* は10月より12月の3ヶ月間に採集されたのみである。*T. miyajimai* は11月より4月の間に採集され *T. intermedia* は4, 5, 9月にのみ採集された。この期間に該地で患者の発生を見ず疫学的考察を行うことは困難であるが, 今後発生する患者の調査と相俟つて考察並に感染実験を実施したいと思う。尚本報の詳細は近日別途報告の予定である。(東京医歯大・医動物)

都下大島に於ける恙虫の季節的消長: 熊田信夫・金子清俊・森川達二 Kumada, N., Kaneko, K. & Morikawa, T.: Notes on the seasonal occurrence of larval trombiculid mites on Oshima Island Tokyo

1955年11月から, 1956年11月迄の1カ年間, 毎月東京都下大島の元町及び岡田に於て恙虫の季節的消長を調査した。野鼠捕獲は元町, 岡田共に3つの場所を選定し, 各回それぞれ120 台の捕鼠器を使用し, 晴雨に関係なく実施した。その結果オオシマアカネズミ166 頭, ドブネズミ5 頭, クマネズミ3 頭, 計174 頭を捕獲した。野鼠の捕獲率にも季節的な変化を認め, 10月より5月迄は, 平均捕獲率を上まわり, 3月が頂点であり, 6月から11月迄, 特に夏期の捕獲率は悪く, 平均捕獲率以下であつた。元町, 岡田共に捕獲率の消長は似ているが, 平均捕獲率は岡田が低い結果を得た。これ等の鼠より採集した恙虫の消長は, 恙虫指数により曲線を作り観察した。大島に於ける恙虫の種類は, 比較的単純で2属6種であつた。即ち *T. fuji*, *T. scutellaris*, *T. pallida*, *T. kitasatoi*, *G. saduski*, *T. japonica* の順に多く, 総計14,308 疋を得た。これ等のうち七島熱の媒介者として考えられている *T. scutellaris* は10月より発生し, 11月に急激に増加して頂点に達し, その後減少し4月迄少数残存する。尚この期間中の七島熱の患者の発生状況を調査した結果, 10月下旬より1月上旬迄患者の発生があつた。*T. fuji* は10

月に少数発生し *T. scutellaris* より少し遅れ、1月に急に増加し頂点に達し、3月迄割合に多く、その後急に減少し、5月に入ると全く認められない。*T. pallida* は前者と同様10月から少数発生し、2月に頂点に達し、5月に全く認められなくなる。*T. kitasatoi* だけは1年中発生しているが、特に4月と10月に山が見られた。尚元町と岡田を比較すると、各種類共に大した相違が認められないが、*T. pallida* の数が岡田に比べて元町に多い点が異っていた。以上を総括して他地域と比較考察すると、現在迄知られている季節的消長に関する研究の中で、千葉県長尾地区の成績が大島と非常に良く似ている。即ち各種類の曲線及び *T. fuji* の頂点が1月にあり、又 *T. kitasatoi* 以外は夏期に採集されない点等があげられる。同じ伊豆七島に属する八丈島の *T. scutellaris* に就いて比較すると、八丈島に於る本種の出現は11月初旬に認められ、12月に頂点に達し、従つて約1ヶ月のずれが認められることになる。本報告は地方性リケツチア症研究班（委員長：田宮猛雄）の全国的調査の1部として実施されたものであり、この詳細は改めて印刷発表の予定である。（東京医歯大・医動物）

隠岐島における恙虫：西田弘 Nishida, H.: Trombiculid mites in Oki-island (Shimane Prefecture)

隠岐島における恙虫の調査は、昭和31年9月に地方病性リケツチア調査班によつて行われたものがあるのみで、未だ充分調べられていない。私は昭和31年11月、京都大学の徳田氏らによつて行われた隠岐島の野鼠の調査に協力して渡島し、野鼠寄生の恙虫を調査する機会を得た。調査が行われた所は周吉郡西郷町の4カ所と知夫郡浦郷町の1カ所、計5カ所であつて、これらの地で *Apodemus speciosus navigator* 19, *A. geisha celatus* 7, *Antelomys smithii okiensis* 7, *Urotrichus talpoides minutus* 21, 計54頭の野鼠を捕獲した。これらの野鼠について恙虫を調べた結果、*Trombicula pallida* 131, *T. japonica* 33, *Gahrlepieia saduski* 57, *T. fuji* 489, *Euschöngastia ikaoensis* 3, *T. murotoensis* 46, *T. tanakaryoi* 6と3, *T. fukuoka*? 1, 計1393疋の恙虫幼虫を得た。この隠岐の恙虫相は山陰本土の同一季節における野鼠の各対応種のそれと比較して、大差は認められない。然し、*T. fukuoka*? を認めたことと、*T. pallida* が西郷町の大満寺及び浦郷において相当多数採集せられた事は興味ある事である。*T. pallida* は周知の様に広義の恙虫病の媒介者と推定せられているので、上記の2地方においては本病との疫学的関係において注意を要する。次

に隠岐島産の恙虫幼虫3種について形態上特異な点を記述すれば、*G. saduski* の背甲板後部の毛の数は全て2本であつた。*T. fukuoka*? としたものは西郷町の上東郷で捕えた *U. t. minutus* から得たもので、*T. fukuoka* に似ているけれども標準測定値の一部及び胴背毛数（2—8—7—2—7—4—2, 計32）において、原著の記載と一致しない点があるので、このものが独立種であるかどうかについては更に検討したい。次に *pallida* の胴背毛についてその変異を検討した結果、全体としては DS-II: 12本を最頻型とする本州の *pallida* の基本型と同一集団をなすものと考えられるが、一部には 2—10—10, 2—10—11, 2—11—10, 2—11—11等の八丈島の *T. pallida burnsi* に近い胴背毛式を示すものがあり、全体としても米子において採集された *pallida* のそれと比べて胴背毛数の少い個体が遙かに多い事、又 PWも15疋の平均は77.9 μ (72—82 μ) で、米子のものよりも相当大きく、むしろ八丈の *burnsi* のそれに近い事を認めた。この様に隠岐島の *T. pallida* の中に、遠く離れた八丈の *burnsi* に近い様な個体の見られる事は、この種の変異性に関連して甚だ興味深い。（鳥取大・公衆衛生）

愛媛県下の恙虫 (I): 山口富雄・福山義彦 Yamaguchi, T. & Fukuyama, Y.: Studies on Tsutsugamushi, in Ehime Prefecture (I)

四国における恙虫の分布状況については、今日までにかなり明らかにされている。しかし、愛媛県だけは、その調査が不十分で、ほとんど不明の状態にある。われわれは、本県の恙虫相を調査し、その結果、四国全域の状況を明らかにする目的で、1956年12月から、愛媛県下全域について検索を行つた。今日まで、18カ所、延27回の調査で、アカネズミ79, スミスネズミ5, ドブネズミ5 およびヒミズモグラ8, 計97頭を捕獲し、3属13種、8,533疋の恙虫を捕集した。調査範囲は、一応県下全域にわたつており、本県の恙虫相は、大体これで明らかになつたものと考えられる。とれた恙虫の種類は、多いものから、キタサト、ガーリエピア、フジ、ミタムラ、コウチ、ムロト、クロシオ、ミヤジマ、ダイセン、カンサイ、イカオタマ、フトゲ、ミヤイリの順である。宿主別には、アカネズミには、カンサイ、およびミヤイリを除いた11種、スミスネズミには、キタサト、フジ、クロシオ、ムロト、コウチ、ミヤジマ、ダイセン、ガーリエピアの8種、ヒミズモグラには、キタサト、ムロト、ミタムラ、カンサイ、ミヤイリの5種で、とくに、ヒミズモグラに、極めて多数のミタムラの附着しているのが注目